○氣樂者

無意識につくと息を、話の間々に苦しからうと思つてりは、何の事やら一寸解せかねたらしい。妊 れる人の「え?」と茶箪笥の戸に手を掛けた儘振り向いたわぐ「苦しいでしょ」思ひ出したやうに律子は云つた。 異代國 服 部 貞 子

居た律子は、

つひ今口に出たのであつた。

て 箸の所で止めて其手をかけて、 を取り出 居るのに初めて氣付いたらしく、目許で笑つて茶道具 うと思つてましたが、其麼でもないものですよ」 もとお腹の大きな人を見るとどんなにか苦しい 「さう」と幽に顎を引いて、 「それあ心細いことは心細いけれども、 「いゝえ」と視線がふくらんだ我帶のあたりに注いで 律子は何處までも、 し乍ら「其麼でもないんですよ、 お祖母さんでも上京れるんだと 自分の心を他人に當はめる。 火鉢の周圍を一撫で、火 「貴女心細かあなくつ 故郷へは歸り 私もねえ、 んだら

> を、 に懷しがつて聞く故郷の噂も、 が、來て見れば性分とは云へ案外平氣なもの。 自分の思わくもこき交ぜて、 歸省して昨日上京つた律子は、 の飯田町の奥に友を尋ねた。 云ふやうな口振り、 「此家の伯母さんがね、 か心丈夫なんですよ」全く心丈夫なのらしい。 いゝけれど到底駄目なんだし‥‥‥」と諦めてると 如何する積りか知らと道々考へて來たのであつた 無言つて茶碗を手に乘せて出して 親切にして呉れるんでいくら 七月と聞いた友の身の上 祖母なる人の陰心配に、 届け物かたが、今日こ 大方例の快活な笑ひに

した。
て、繰り返し――賴まれたことや、愚痴ごとを思ひ出て、繰り返し――賴まれたことや、愚痴ごとを思ひ出つた。上京る前の日も、 わぐりの 家の隱居所に尋ね「何て氣樂な人なんだらう!得だわねぇ」と律子は思

値するものばかりであつた。

早生れなのでわぐりは律子より一つ多かつたが級はけ」多くは言はないで、たゞ思つた。「祖母さんも大へん心配して 居らつしやいましたつ

に、 嫁入つた。二年目の正月に里歸りしたまゝ、一年半ば けでよして、 律子は親しい友達とては一人もなかつたが、 同 てからは猶更激しかつた、それで夫は今家に居ないと \mathcal{O} カ くなつてからは、 直ぐ仲よくなつてまた仲惡るくなるわぐりと一度仲よ 云ふ。姑をよく言はないは勿論のこと。 がは夫の繼母で常々折合が惡るい、 2じかつた。小さい時から無口で心の引立たなかつた り隱居所に暮したわぐりの云ふ所によると、 交りが親しくなつた。二人とも町家並に小學校だ 一年違ひにわぐりは早く二本松の商家に 家の近かつた故もあらうが、 殊に自分が嫁つ 誰にでも 不思議 嫁入先

た。 弱 と云ひ、 にかけた祖父祖母は、 の手紙を受取る度、 東京に出て某會社の書記 淋しさに堪えられなかつた。生れるとから手しほ ぐりは弟が、時として現る食客扱のに、 で如何するのだと、 東京 へは猶更やらぬ、 わぐり 其様な邪見な家にはもうやらぬ 、は獨り住みの寂寥さを感じ いつかな肯かぬ !の役とかを見付けた夫から 暮してゆけるか、 其態な

していふ。

わ

輪をか

際は に、 時は、 た。 けて自分が上京心を募らせた。 々己が上京心を確かにした。 居づらがつて、 死に別れて家に歸つて居た律子に、 また一年後れて裁縫學校に入學した律子が 早や可なりの東京通になつて居た。 祖父祖母を説きつけてわぐりはつひに 同情心を買つて、そして其同情心で益 間もなく弟嫁が決 猶、 輪に輪をか 其頃不幸にも夫に いつたを · 尋ね けては 上京し

快活なわぐりの笑ひを浴びる。 臭い狭苦しい座敷住居にも、 麗好きな上役の家の二階に住んで居た時 狹い乍ら一 軒の家を持つて居た時 尋ねる度に律子は 夫は今某商店に通ひ ŧ ŧ 子供 この のな ζ) 、つも 陰氣 綺

に止つた隅に押し遣られてたメレンス友禪を目顔でさ \ \ \ 4柄だこと!赤ちゃんのに?」起ちながらふと目 番頭の身の上だとやら。

さうねぇ、子供のもそろ――用意しなくちやあならな もせうかと思つてね いゝえ、 襦袢 0 袖 え、 が切れつちゃつたんで、 福切れの中にあつたんですよ。 それにで

いわねえ」

「何處まで氣樂なんだらう!」

律子はまた自分の心にひきくらべた。

送り出して座敷に戻つたわぐりは、竹の皮の八の字

になつてる鶯饅頭の黄な色を見て、蓋とつて見た鐵瓶

の湯氣の熾なのを見ると、戸口にむけて冴えた聲。

「伯母さん居らつしゃいなお茶入れますから」

「へい有難う」

やう――に立膝をおろすと、減り氣味の湯はちーん

(となり出した。

【入力者注】底本は総ルビですが、一部のみ残しまし

た。

したり、半角スペースを挿入した箇所があります。底本に行を合せるために、フォントサイズを小さく

初出•底本:「女子文壇」明治四十一年二月一日

テキスト入力:小林 徹

公開:令和六年三月二十四日

リンク:「作品年譜」

水野仙子ホームページ